

人間社会学部における教育研究上の目的と三つの方針

1. 人間社会学部の研究教育上の目的

人間社会学部は、教養並びに専門科目に関する教育・研究を通して、幅広い視野を持ち専門分野を深く探究し、知的・道徳的に優れた能力を兼ね備えた人格を育成し、社会の発展に貢献する人材を養成することを目的とする。

2. 情報社会学科の教育研究上の目的

情報社会学科は、情報社会に関する基礎知識と専門知識を身につけ、社会に貢献する人材を養成することを目的とする。

情報社会学科の各コースの目的は次のとおりである。

- 一 ネットワーク社会コースは、法律・経済・経営・会計・情報システムに関する教育・研究を通して、社会組織の中核を担う人材を養成することを目的とする。
- 二 文化コミュニケーションコースは、言語・文化・歴史・宗教に関する教育・研究を通して、文化間の対話に貢献する人材を養成することを目的とする。
- 三 デジタル表現コースは、映像・音楽・デザインに関する教育・研究を通して、人間性豊かな社会の創造に貢献する人材を育成することを目的とする。

3. 情報社会学科の3つの方針

1) アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れ方針）

情報社会学科では、幅広い教養と情報社会に関する専門知識・技術を身につけ、社会で活躍できる人材の育成を目的としています。情報社会の様々な分野において、自ら課題を発見し解決することを通じて、社会の中核を担っていくようとする人を求めています。具体的には以下のような入学者を受け入れます。

- 一 これまでに学んできた英語や情報リテラシーを補強、拡充したい人
- 二 哲学・思想・言語・歴史を学び、人間社会の普遍的な課題について追究したい人
- 三 法律・経済・経営・情報を学び、現代社会の課題に立ち向かっていきたい人
- 四 CGやコンピュータ・ミュージック、電子書籍などの新しい情報・マルチメディア技術や思想を学び、デジタル・クリエイターとして表現活動をしたい人
- 五 どれか一つの領域に限らず総合的に学んで、社会で活用したいと考える意欲的な人

2) カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

情報社会学科のカリキュラムは、学生一人ひとりの将来の進路選択にあわせて、必要な教養を身につけると同時に、専門的な知識・技術を効果的かつ柔軟に学べるように編成されています。情報社会学科の科目には、1年次を中心に配置された現代の情報社会に必要な教養科目、2年次から3コース制（文化コミュニケーションコース・ネットワーク社会コース・デジタル表現コース）となって学んでいく専門科目、どのコースに所属しても共通で身につけて欲しい、社会において不可欠なコミュニケーション能力、問題発見解決能力を育てる演習科目があります。

<教養科目の特長>

- 一 現代の情報社会に必要な教養科目を人間理解、国際理解、科学技術理解の3つの科目群を主として構成し、社会のどの分野でも必要となる知識の習得を助け、多様な領域に目を向けることのできる素地を育てます。

- 二 英語と情報リテラシーは能力別のクラス編成を行い、社会で必要とされる基礎的な知識・技能を身につけることを目指します。
- 三 卒業後の進路選択を的確に行えるようキャリア・デザイン科目も設けています。

＜専門科目の特長＞

- 一 2年次からは、各自の適性や興味関心、実践的な活用能力を見極めて、3つのコースから1つを選択し、その分野に関連する研究方法と多様な専門知識を系統的に学びます。
- 二 コース制はフレキシブルに運営されており、自分の所属するコース以外の科目も自由に履修することができます。卒業研究に関連する諸科目の履修にも対応しています。

＜演習科目の特長＞

- 一 大学での「学び」への移行を円滑にするために、1年次から少人数クラスの演習科目を開講し、大学における学び方を身につけます。
- 二 少人数制の演習科目は、「基礎演習」→「一般演習」→「総合演習」と各学年に段階的に配置され、3年次からは、指導教員による個人指導を通じて専門的な知識と技能を深め、4年次には卒業論文・卒業作品を完成させます。

3) ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

次の要件を満たしていることを卒業研究により確認したうえで、所定の単位を取得した人に学位を授与します。

- 一 情報社会における、人間と社会への深い理解を有している。
- 二 情報社会に必要な、高いコミュニケーション能力と問題発見解決能力を有している。
- 三 情報社会で活躍するための、情報機器を駆使して情報を活用する能力を有している。

4. 心理学の教育研究上の目的

心理学は、人間の心を科学的に解明する教育・研究を通して、人間の心を深く理解し、社会に貢献する人材を養成することを目的とする。

心理学の2コースの目的は次のとおりである。

- 一 心理キャリアコースは、心理学の基礎と応用を深く学び、心理学に関わる専門職に就く人材を養成することを目的とする。
- 二 心理教養コースは、心理学の知識に併せて社会人として必要な心理学的技能を学び、広く社会に貢献できる人材を養成することを目的とする。

5. 心理学の3つの方針

1) アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れ方針）

本学科では人間の心と行動を科学的に解明する教育・研究を通じて、人間の心を深く理解し、社会に貢献できる人材を養成することを目的としています。心理学は他の学問と比べ、非常に間口の広い学際的な学問です。文系と理系という枠組みにとらわれずに、客観的な視点から自分や他者の心を理解して、仕事や社会生活に生かしたい人、あるいは、心の問題を抱えた人に対するケアやカウンセリングなどの専門職を目指す人など、多様で幅広い人材を求めています。

2) カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

臨床心理学と基礎心理学の2分野をバランスよく、そして深く学ぶことのできるカリキュラム編成をしています。そのため、基礎心理学の分野では心を科学的に理解するために、知覚、学習、認

知、生理心理、脳科学などの科目を学び、臨床心理学の分野では心のケアやカウンセリングを中心にした科目を学びます。

この二つの分野の講義・実習をバランス良く学ぶことによって、人間だけでなく様々な物事を客観的にとらえる姿勢を涵養するとともに、一人一人の人間を細やかに見る目を養います。また、学生の興味と卒業後の進路希望のニーズにきめ細かく対応できるよう、「心理キャリアコース」と「心理教養コース」の2つのコースを設けています。このコース分けは、まず1年次に心理学の基礎知識、科学的態度といった基礎的な態度を身につけた後に、2年次になるときに行われます。心理学の専門的資格を要求される臨床心理士などの専門職に就きたいという学生を対象とした「心理キャリアコース」では、心理学の基礎と応用を深く学ぶことのできる科目が用意されています。一般的な職種希望の学生を対象とした「心理教養コース」では、心理学の知識に併せて社会人として必要な心理学的技能を学ぶことができるカリキュラム構成になっています。

3) ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

次のような要件を満たしていることが、学位授与の条件となります。

- ・心理学の専門科目、実習科目を履修することにより、心理学の専門的知識と心理的データの測定と解析技法を身につけている。
- ・さまざまな「心の問題」に対して科学的な説明を行える思考能力を持ち、それらの問題への対処方法を見出すことができる。
- ・社会生活において、協調性と倫理性を保ちながら「心の問題」に対処できる実践能力を有している。

これらの知識と能力の修得については、所定の単位取得と、実験・調査を実施して得た客観的なデータを心理学の広い知見に基づいて分析、考察する卒業研究によって認定されます。